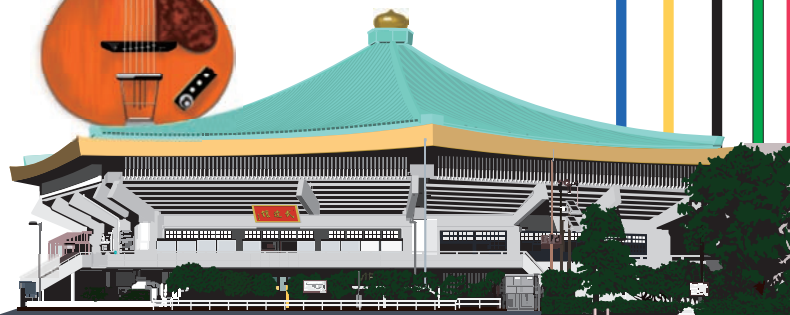


Le Monde de Keishin

1964

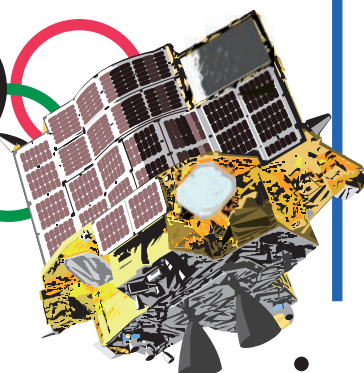
TOKYO

1966



2020

2024



「困難があつても、私は挑戦する」

sit difficile, experiar tamen.

CONTENTS

- P. 2 コラム
- P. 3 21期生へのメッセージ
- P. 4・5 特集: 学校を飛び出して活躍する慶進生
～Go Beyond～
- P. 6 時の人
- P. 7 東大の慶進生

- P. 8・9 進学羅針盤
- P. 10・11 同窓生～15期生の慶進～
- P. 12 La Photo de Keishin
お知らせ・大学合格実績
小さな本箱



「sit difficile, experiar tamen. 困難があっても、私は挑戦する」

「パシャ」「キャシャーン」

何とも言葉にするのが難しい音です。iPadのカメラの音です。慶進の教室では、「先生、黒板を撮影してもいいですか」の言葉の後に、この音が聞こえてきます。ただ、よくよく考えてみると、この音は何なのでしょう。我々、昭和世代にとってはカメラのシャッターの開閉の音でした。しかし、デジタルになった今はこの音は必要ではありません。調べてみると、盗撮などを防止するためのカメラの音のようです。

時代が変わることで、意味や用途が変わることがしばしばあります。表紙絵の武道館もそうです。ビートルズが来日したことで武道館は武道の場から音楽の場に変化しました。ドリフだって音楽バンドからコントグループに時代に合わせて変化しました。

大学入試も変化しています。二〇二二年の出生数は八〇万人を下回りました。一九七〇年代の二〇〇万人と比べると大きな変化です。この少子化は大学受験受験者数の大幅な減少をもたらしました。受験生が多いと、どうしても一人一人の受験生をゆつくりとみる時間

はありません。そこで、試験の点数で線引きをする入試形態が効率的でした。しかし、受験生が少ないと事情は変わってきます。大学は一人一人の受験生の志望理由やプレゼンテーションをしっかりとみて選抜します。これが総合型入試です。そして、総合型入試で入学した学生の方がよく成長するということがわかってきたようです。だから総合型入試での入学者数が増加してきました。

このような時代の移ろい、大学入試の変化に、慶進も対応しています。アナログからデジタルへICTを活用するようになりました。偏差値で測れる従来の学力を身につけるだけでなく、グローバル・リーダーズ・プログラム（GLP）にみられるような、非認知と言われる探究型の学習を充実させてきています。ただ、その一方で変わらないものもあります。慶進の校舎で継承され、醸成されてきた慶進のエスプリです。本号では時代の移ろいに対応する慶進の変化と変わらない慶進のエスプリ、そんな慶進の世界（Le Monde de Keishin）をお伝えします。

6年中高一貫教育

慶進では生涯にわたって役立つ学力を身につけるために、6年間を2・2・2の3つのステージで構成しています。勉強のおもしろさを知ることから始まり、生徒たちが主体的に学習に取り組み、学内外の様々な体験活動で、豊かな人間性と、ともに生きる力を育み、次世代のリーダーとなる人材を育てます。

1st Stage

基礎学力養成期

中学1年生

中学2年生

2nd Stage

実力充実期

中学3年生

高校1年生

3rd Stage

発展応用期

高校2年生

高校3年生

慶進生の生活のリズム

令和六年二月一日、令和六年度慶進中学校生徒会長選挙が行われ、19期生丁田煌士郎さん(中三)が生徒会長に選出されました。新生徒会長が慶進生の生活について、新たに慶進の制服に袖を通す21期生へメッセージを送ります。

21期生の皆さん、ご入学おめでとうございます。この慶進中学校で皆さんはこれからいろいろなものに出会うと思います。

例えば、慶進中学校には行事がたくさんあります。一学期には慶進祭があります。各クラス、学年で協力し出し物や展示物を作成し、生徒が企画から当日の運営を行います。二学期にはスポーツフェスティバルがあります。全年が三色に分かれて、一致団結して優勝を目指して戦います。スポフェスで毎年恒例のソーラン節は全学年が協力して、華麗に迫力のある踊りを披露します。他にも合唱コンクールやクラスマッチ、スケッチ大会などたくさんさんの行事があります。

行事以外にも、新たな経験、出会いがたくさんあると思います。例えば、算数が数学になり、代数や幾何の二つに分かれ、また国語も古典や現代文、理科は化学、生物、物理、地学、社会も地理と歴史に分かれます。さらに英語も本格的にスタートします。今までより難しく複雑な

生徒会長 19期生

丁田 煌士郎(中三)



勉強や、部活動等もあり、毎日が大変になっていくことでしょう。

このような学校生活をこれから送るにあたって、大切なことはなんだと思いますか？それは日々の生活リズムを整えること、そして、しっかりと『楽しむ』ことです。中学校に入ると、先ほども述べた通り、勉強する量が今までより増えたり、部活動があつたりして、帰りが遅くなったり、夜遅く勉強することも多くなるでしょう。

自然と睡眠時間が減っていくかもしれません。このような生活が続いていると、体に悪影響が出たり、授業に支障をきたすかもしれません。そうすると、夜遅く勉強した意味がなくなりますよね。『私には関係ない』『僕は平気』とか思っている人もいるかもしれませんが、そういう人ほど体調を崩しがちです。そうなることを避けるため

には、規則正しい生活を送ることが重要です。言うだけなら簡単ですが、実はなかなか難しいことです。塾や習い事などですうしても遅くなる人もいますでしょう。

ではどうすれば良いでしょうか。それは具体的な時間を決めることです。起きる時間や寝る時間などを具体的に決めていけば生活リズムが乱れることはありません。最初は難しいかもしれませんが、継続すれば、必ず身につきます。

最後に、しっかりと『楽しむ』ことが大切です。行事や部活動の時間などをしっかりと大切に、楽しんでください。もちろんそれらも大切ですが、授業や休み時間、友達との時間もしっかりと大切にしてください。これから長い時間、慶進で過ごすことになります。しっかりと元気に生活リズムを整えて、楽しく慶進での時間を過ごしてください！

21期生へのメッセージ

中学校1年1組 担任

笹川 剛 教科：数学

教科の魅力

計算をすると『実行力』が身につきます。問題を解くと『思考力』も身につきます。すると、『粘り強さ』までも身につけていきます。

確実にこなさないといけないスレー(行動)が確実にできるようにしましょう。それができるチーム(学年)は強いと思います。



中学校1年2組 担任

遠藤 陽 教科：社会

教科の魅力

社会科の面白いところは、現在を日本で生きる自分を、他の地域の人々や昔に生きた人々と比べることを通して、今まで知らなかった世界を知ること、世界と出会うことにあると思います！

入学おめでとうございます。新しい環境で不安もたくさんあると思いますが、それ以上に楽しいことやワクワクするような出来事がたくさん待っています。21期生全員で、これからの6年間を全力で楽しみましょう！



特集:学校を飛び出して活躍する慶進生

めざましい
変化と進化の
この時代に

Go Beyond



※GLPで培った力を武器にして

※GLP(グローバル・リーダーズ・プログラム):慶進生の一人ひとりが世界で活躍するリーダーとなるためのスキルを身につけるための、慶進独自のプログラム

学外でも
その力を発揮して
活躍している
頼もしい慶進生をご紹介します!!

エコノミクス甲子園

全国大会3位

高3 山中 駿さん(当時高2)/高2 福岡 綾乃さん(当時高1)

全国高校生金融経済クイズ選手権
2024年2月

会場:国立オリンピック記念青少年総合センター



エコノミクス甲子園って??

同じ学校の生徒2人1組(ペア)で出場し金融経済に関する様々な形式のクイズに勝ち抜いていく...という大会です。山口県大会で優勝した山中さん・福岡さんのペアが、全国大会に出場し、見事3位に入賞しました!



どんな問題が出るの?

為替、株、不動産、投資、保険など多岐に渡る分野の問題が出ます。エントリーしたら、スクランブル(高校英語のぶ厚い参考書)くらいの厚さの用語集などのテキストや資料が届くので、まずそれを覚えます。それに加えて、日頃から、ニュースをチェックして時事問題の対策もしました。



どんな戦いがくり広げられるの?

前日予選では筆記テストに加え、即時で5~6人のグループがランダムに作られ、そのメンバーでプレゼンテーションテストを受けます。本戦は出場校ごとのペアで第1から第3ラウンドへと勝ち抜いていき、残った5チームが決勝ラウンドを戦います。



2人はどんな戦略で挑みましたか?

山中:僕は昨年に引きつづき2回目の出場で、昨年インプットした知識があるので、今年は他校と差をつけるための、時事問題や正解後の掛け引きの戦略を考えることに集中しました。福岡さんが正解してくれるからこそ信じて専念できました。

福岡:先輩の戦略を信じて、私はともかく、1年以上かけて詰めこんだ知識をフルに発揮して、解答することに専念しました。来年も参加して、次こそ優勝したいです!



エコノミクス甲子園の魅力は?

単に、正解するだけでなく、正解したあと更にヒット&ブロー形式の対戦相手との掛け引きが求められます。知識だけでなく掛け引きの展開を予測して、戦略を練る力も必要で、それがこの大会の醍醐味です。



〈写真提供:山口県大会主催 山口銀行営業統括部〉

全国中学ディベート選手権

全国大会
ベスト16

会場:千葉大学 2023年8月

高1 西川 直人さん/森藤 悠月さん
(当時中3) 池内 琴美さん/松永香南実さん
山中 優さん/河野 由依さん

論題「日本は鉄道の運賃を自由化すべきである。是か非か?」

校内ディベート大会を機に集まった6人が、2023年7月の中国・四国地区大会で準優勝し、8月に全国大会へ挑みました。半年間の準備を重ね、論題についての情報収集と分析を行い、論理的な意見を構築し、プレゼンテーションの腕をみがきました。



科学部

Eテレ天才てれびくん出演

NHK Eテレ 2022年12月・2023年11月
高1 藤澤 寛慶さん/西川 直人さん/中尾 天哉さん
(当時中3)

今春卒業した15期生が科学の甲子園Jr.の実技競技部門で全国優勝したのがきっかけで、Eテレの番組に2年連続出演しました。番組オリジナルの「指プル」というゲームにチャレンジし、番組初、見事にコースをクリアしました。「先輩から受け継いだ磁石の研究をもとにコースを科学的に分析し、チャレンジしました!!」



ICT Lab

やまぐち高校生ICT活用コンテスト 最優秀 山口県知事賞 受賞

主催:山口県教育委員会 運営:林兼コンピューター(株) 2024年1月
高3 池本 彩生さん(当時高2)

シニア向け SNS型 見守りサービス パロット



ICT Labのメンバーと、チームを組んで出場したのに加え、個人でも「パロット」を提案しました。

高齢者でも利用しやすいSNSで、家族や友人とつながるだけでなく、健康管理や、イベント、ボランティアなどの活動にも取り組み、社会と繋がる工夫をこらしました。小学生の頃からプログラミングが好きで、今は競技プログラミングのオンラインコンテストにチャレンジしています!!

科学部

やまぐちU15科学アイデア作品・研究コンテスト 最優秀ニコラ・テスラ大賞 受賞

会場:防府市青少年科学館ソラール 2023年11月
高1 関 晴臣さん(当時中3)

『モンテカルロ法とラズベリーパイを利用した プログラムの構築による円周率の計算』を発表

中2のGLPで調べた「モンテカルロ法」を用いて、ラズベリーパイというコンピュータにプログラミングし、実際に円周率を計算しました。何度もエラーが起きましたが、チャットGPTも利用しながら改良して、成功できました。なんと、この賞の副賞は、「東京への科学の旅ご招待」と「セルビアのニコラ・テスラ博物館永久無料招待券」でした!!セルビアに行きたいです。



競技
かるた部

全国高等学校総合文化祭 小倉百人一首かるた部門出場

2023年8月
高3 岩本 一輝さん(当時高2)

山口県選抜チームに入り、全国大会に出場しました。競技かるたでは常に戦略を考えて1札ずつ、確実にとっていくことが大切です。また、試合ごとに、戦いの波、流れを味方につけることが、勝つための秘訣です。



16th Chugoku
SPEECH CONTEST
FOR
HIGHER STUDENTS

中国地区高等学校 英語スピーチコンテスト3位

2023年11月
高2 松田 慈七さん(当時高1)



「All Families Matter」

日本の同性婚と養子制度の問題点に一石を投じる英語スピーチを発表しました。出場者はみんなネイティブくらい流暢なので、「メッセージを心で伝える」という気持ちで自分らしくスピーチをしました。

英語
スピーチ部

La Classe de Keishin

変化する慶進のICT

二〇一九年度から入学生が一人一台のPCを持つようになって、六年目を迎えます。これまでの五年間に慶進生のICT環境は大きく変化しました。一人ひとりがPCを個別最適化し、PCは文房具と同様に日頃の学校生活に必需品となりました。

しかし、時間の経過とともに課題も現れました。それは、一人ひとりがICTを活用するためにさらにスキルアップすること、社会・大学入試の変化に対応した資質を養うことです。

そこで、21期生より慶進のICT教育は三つの大きな変化を導入します。

第一に総合学習の一時間をICTに特化した時間として、慶進生のスキルアップを図ります。これまでの学校生活の中で必要とされるスキルを全員が修得してよりいっそうICTを活用できるようにします。

第二に姉妹校である山口芸術短期大学と連携し、配色・視線誘導・情報整理などのデザイン思考の学習を実施します。近年、その有用性が盛んに言われるようになってきたデザイン思考を大学の先生から専門的に教えてもらいます。これは大学受験の総合型入試に役立つだけでなく、その後の社会で活躍するための必要の資質となるでしょう。

第三にAdobe Creative Cloudを導入します。学んだデザイン思考をプロのクリエイターも使用するアプリで表現することを学びます。

この三つは中高一貫の慶進ならではの取組でしょう。この変化によって、慶進生のさらなる飛躍を期待しています。

社会科 田中 祐輔

時の人

慶進では多くの慶進生が自分の将来に向けて輝いています。この「時の人」のコーナーではそんな輝く慶進生を取り上げていきます。今回は、「数学実験の新時代：ラズベリーパイで実現する $\sqrt{2}$ の算出」という修了論文を書いた18期生関晴臣さん(高二)、テーマ発表会で「神回」サイン音作ってみた!!」を発表したグループを代表して17期生湯脇晴斗さん(高二)を紹介しします。

修了論文：金賞「数学実験の新時代：ラズベリーパイで実現する $\sqrt{2}$ の算出

僕は「数学実験の新時代：ラズベリーパイで実現する $\sqrt{2}$ の算出」という題で修了論文を作成しました。これは中二の選択課題の内容を発展させて今年の夏休みの自由研究の結果も合わせた三つの研究の集大成です。

僕は今回、修了論文の発表をする上で気をつけた二点のことについて紹介したいと思います。

一点目は「伝わりやすいスライドを作る」こと。発表テーマが数学とプログラミングという、少し取り掛かりづらい内容なので、誰が見てもわかるような、簡潔かつ見て楽しいスライドを目指しました。特に「動画やPowerPointのアニメーション効果を多用し、文章にすると伝わりにくいところも、情報量をなるべく絞り、聞いてほしい部分だけを発表することを心がけました。

二点目は「発表するときの振舞い」です。家族の前で練習を見てもらった際に、声が上がって自信がないように見えると言われたので、落ち着いた、普段の自分らしく発表することに気を付けました。本番では自然に身振り手振りもできたので聞いていた方々にもよく伝わったのではないかと思います。

今回の修論発表は、中学校の全校生徒だけでなく、たぐさんの先生方、保護者の皆さんの前という、大勢の前で発表するとても貴重な機会でした。この様な会で発表させていただけただけで、自分の考えを聞



▲金賞 関 晴臣さん

き手にわかりやすく、興味を持って聞いてもらう力を磨くことができたと思っています。今回の修了論文と発表会の経験を活かし、高校生になっても自分の興味を追いかけ続け、成果を残していきたいと思っています。

18期生 関 晴臣(高二)

修了論文

GLP (下記参照) では、中学校3年生で修了論文を執筆します。中学校の時から大学での学びを意識し、自分の学問分野への知識を蓄積し、考えることを楽しみます。毎年年度末に行われる GLP 報告会では、選抜された10名が中学校全生徒にプレゼンテーションを行います。そして投票の結果、金賞・銀賞・銅賞が選ばれます。

2023 年度 修了論文

- 金賞 関 晴臣「数学実験の新時代：ラズベリーパイで実現する $\sqrt{2}$ の算出」
銀賞 松永 香南実「地球温暖化防止のために宇部市にできることとは」
銅賞 原田 堇花「授業中眠れなくなった時の対処法」

テーマ発表会

【神回】サイン音作ってみた!!

この行事では、現在の自分が興味を持っていることについて深く調べて研究をすることで、自らの知識の幅を広げられたり、進路選択のきっかけに出会えたりします。

僕は音楽というテーマを選択し、調査と研究の後、「【神回】サイン音作ってみた!!」というタイトルのもと発表を行いました。サイン音とは、踏切の音や救急車のサイン音などの周囲の人に情報を伝えるために用いられる人工音のことです。僕達はこの「サイン音」に注目し、サイン音を、必要な要素などを踏まえて作成しました。この研究を通して僕は、普段気に留めないような部分にこそ重要なものがあったりするという事に気づくことができました。

もしサイン音がないと、サインの鳴らない救急車は緊急時に他の車に避けてもらうことができませんし、チャイムの鳴らないインターホンは来客を家主に伝えることができませんし、チンツと鳴らない電子レンジは加熱終了を周囲の人に伝えることができません。このような知識や考えは、このテーマ発表会という行事があったからこそ得られたものです。また得ら

れる知識は自分の調査からだけとは限りません。他の班の発表を聞くことで、より知識の幅を広げられ、そこからもしかしたらもっと興味のあるのを見つけたるかもしれません。

大学受験特に総合型選抜や学校推薦型選抜などの入試を狙っている人にとっては、自身の進路に関する知識や意見などを持つていくことは非常に大切だと思います。そんな中、このテーマ発表会を、大学受験の準備を本格的に始める前に興味のある学問について調べることで、できる有意義な機会として、存分に使うことができれば、より良い進路を歩むことができるはずです。

17期生 湯脇 晴斗(高二)



▶ 右から湯脇 晴斗さん・中島 悠太さん 荒瀬 虎太郎さん(高二)

グローバル・リーダーズ・プログラム (GLP)

慶進中学校・高等学校では、中高一貫6年間で次世代のリーダーを育てるべく、GLPを展開しています。GLPを通して、生徒が志を立て、確かな学力を備え、高い人間力を養い、社会で活躍することをめざしています。持ち得る知識を活用して、興味関心を高め、主体的に問題意識をもって行動できるように促す狙いがあります。日本国内はもとより国際社会で通用する能力を備えた人材となるよう、教師陣が強力な支援をしています。

テーマ発表会

高校1年生の GLP の取組。同じ学問分野に関心のある3～4名のグループでテーマを決定します。問題を発見し、考察します。そして、中学校3年生・アドバンスコース1年生に各グループがプレゼンテーションをおこないます。

東大の慶進生



村川 悠

東京大学教養学部文科三類

立石 真之

東京大学大学院

平尾 青大

東京大学教養学部理科二類

今春、15期生が卒業しました。これまでに慶進中学校・高等学校からは十七名が東京大学に進学しています。卒業後も東大の慶進生は慶進と繋がり、後輩の道標となっています。三月十六日、三名の東大の慶進生を囲んで茶話会が行われました。多くの慶進生が東大の慶進生と熱く語っていました。理学部理学科立石真之さん（11期生）、理科二類平尾青大さん（13期生）、文科三類村川悠さん（14期生）に話を聞きました。

●東大を目指した理由

立石 小学校の時の科学者への夢を、中学時代に担任の岡藤先生が後押ししてくれて東大を目指すことにしました。そして、調べてみると充実した設備や教育体制、全国から集まる優秀な学生、そんな素晴らしい環境だと思ったからです。

村川 高校一年生の時に志望を固めました。東大には、学部を選択できる進学選択制度があり、美術分野で興味深い研究をしている教授がいたからです。また、最難関にチャレンジしたいと思いました。

平尾 元々ピアノをやっている、進路を決めかねていた所、早川先生との面談で、「東大に行けば、色々な特技を持った創造力豊かな人が沢山いる。君は彼らと友達になって個性を伸ばせばいいんだよ。君は東大に行くしかないよ!!!」と言われたからです。

●東大のいいところ

立石 同期の学生が本当に個性豊かで面白いですし、同期から様々な事を教わる事ができます。現在は、進学先の東京大学大学院の研究室に通って実験、研究のやり方などを学んでいます。

村川 自分が触れてこなかった

様々な分野に挑戦する人や秀でた人がいて、刺激になることです。

平尾 理科二類は、理科三類と同じクラスになるため、日本のトップの人たちと友達になれます。勉強は、ある意味受験勉強以上に大変ですが、理三の友達がいると困った時に教えてもらえて助かります。サークルや遊びにも全力で、大学生活をエンジョイしている人が多いように感じます。私は東京大学ピアノの会というインカレサークルに所属していて、ピアノの上手い東大生や音大生たちと切磋琢磨しながら、コンサートなどに沢山出演しています。本当にやりがいを感じています。

様々な分野に挑戦する人や秀でた人がいて、刺激になることです。

●慶進の魅力

立石 先生方が生徒一人一人の進路や目標に寄り添って、充実したサポートをしてくださる事です。僕自身も大変助かりました。

村川 六年間過ごしたメンバーとの仲が深まったことです。そのメンバーと大学受験に挑めることが魅力です。

平尾 高校内容を中学校三年生からじっくり学べるので、基礎がしっかりと完成するところです。あとは、東大と比べると

慶進の建物は綺麗だなあと感じます(笑)中高時代も快適で過ごしやすかったなと思います。

●後輩へのメッセージ

立石 振り返ってみると時間が過ぎるのは案外早く、トラブルやアクシデントもつきものなので、中高六年間の貴重な日々をぜひ悔いのないよう過ごしてください。

村川 志望大学を心から好きたい大学にすることができれば、受験勉強だけでなく入学後も継続して目標に向かって努力できると思います。その大学を愛するところまでいければこちらのものです。

平尾 東京大学では、個性豊かな友達が沢山で、彼らと本当に楽しい大学生活を送ることができます。とにかく早くから受かるイメージを作っておいて、過去問演習などの東大対策にじっくり取り組んでください。モチベーションを高めることも大事なので、東大やその周辺に何があるか調べてみたり(駒場だと渋谷や下北沢が近い)、入りたいサークルのSNSをチェックしてみたりするのもよいのではないのでしょうか。最後まで妥協せず、こだわりぬいてください。東京大学で待っています！

中高一貫コース15期生 益田 理澄さん(九州大学法学部合格)

慶進での6年間の「変化」について聞いてみました。

Q：慶進中学校に入学した頃のことを教えてください。

入学後は勉強というよりも、どう友人関係を築こうかということ意識していました。高い目標を持った同級生の中で、自分の位置を確立したい、目立ちたい、友だちを増やしたいという思いが先行していました。

Q：将来について考えるよりも、その時のことで精いっぱいだったのかもしれないですね。

はい。中2になると自分のキャラがわかったというか、クラスでの立ち位置も定まってきて、親からは自立したいと思っていました。なので、親が勉強のアドバイスをくれても意地を張り自己流で進めていました。だけど失敗の繰り返しで…。どんどん落ち込みました。

Q：3年生になるとコロナでしばらく学校に登校できない日々がありましたね。

空き時間がたくさんできたので、学習面をどうにかしたいと思い、先取り勉強を始めました。そこで同級生よりもアドバンテージがとれたことで自信につながり、学年でも上位層に入ることができるようになりました。

Q：九州大学を意識し始めたのはいつ頃ですか？

高1の春休みです。九大の芸術工学部にまずは惹かれました。だけど物理が苦手…。次第に、選択肢を狭めず他の進路についても考えるようになりました。これまでの自分を振り返ってみると、私は日頃から社会問題を意識しているなど。そこで法学部に行きつきました。

Q：そのころ既に総合型選抜も選択肢に入れていたのですか？

定期テストではいい点がとれるけど、入試では果たしていい結果が残せるのかなと漠然と考えていました。同時に、いろいろと大学研究をして、法学部の総合型選抜を見つけました。高2の時です。この年は、クラスの雰囲気が悪かったというか、人間関係を良好に保つことが大変でした。今考えると、それがいい経験になっていますけどね。

Q：3年生になると本格的に、総合型と一般受験の勉強が始まりましたか？

総合型選抜とはいえ、共通テストの受験が必要でした。面接もあり、多くの先生方に見てもらいました。振り返ると、定期テストの勉強を頑張っていたから、共通テストでもいい点数が取れたのだと思います。あとは、受験だけでなく、将来のキャリアのことも考えていました。

Q：そうなのですね。例えば5年後にはどのようになっていたいですか？

「法」のプロになって、グローバルな視点で、起きている社会問題に対しての解決策を世界中の人々に伝えられる人になりたいです。そのために、英語だけでなく他の外国語も習得していきたいです。そういったことが仕事にできていたらいいなと思います。

Q：最後に、後輩へ勉強のアドバイスをお願いします。

できるだけ早く集中できる場所を見つけることができるといいかと思います。それから、1日の計画を立てること。あとは、ロボットみたいに黙々と勉強することかな。「1時間シタカラ、5分休憩シマス」みたいな(笑)



進学羅針盤

六年間という長い時間を共に過ごす中高一貫コースでは、それぞれの生徒に在学中にも大きな変化があります。今回の進学羅針盤では、この3月に卒業した15期生の益田さんと担任の先生であった河村先生にインタビューをし、慶進での生活を通じた変化や今後の進路について聞いてみました。

中高一貫コース15期生 担任 河村 真二先生

この春卒業した15期生とは、担任としては5年間、教科担当としては6年間の付き合いがある思い出深い学年です。

今でもよく覚えているのは、中学校1年生で行った徳地での宿泊研修でのことです。いろいろな活動を行うので、スケジュールも細かく設定されていましたが、集団として時間をきっちり守ることができたことです。この「時間」に対する意識は、普段の学校生活の中でも継続して見られました。高校生になってからも、基本的に〇時に集合と言えば、大抵その時間の2～3分前には集合をしていました。これは当たり前のことかもしれませんが、大変素晴らしいことだと思っています。

また、学校行事に熱い学年でした。中学3年生のときは、新型コロナウイルス感染症の影響で、多くの行事が中止になったり、縮小した形での実施となったりして、従来通りの形での実施ができませんでしたが、その中でも全力で行事にぶつかっていました。皆の前で涙を流しながら行事への思いを伝える生徒もいましたし、生活ノートに長文で自身の行事への思いを伝えてくれた生徒もいました。また時には教員ともぶつかりながら、自分たちがやりたいことを実現するために一生懸命取り組んでいました。高校生に入ってから、クラスマッチに向けて自分たちで体育館を借りて練習をしたり、文化祭に向けて多くの生徒が放課後残って作業に没頭していました。そうしたエネルギー溢れる学年だったと思います。

中高一貫コース17期生 倉重 凜久さん

Q：高校1年を終え、取り巻く環境が中学時とどう変わりましたか？

クラス内でも大学受験の意識が高くなったように思います。

Q：自分自身の進路意識は、どう変わっていききましたか？

中学校時代の大半は、漠然と理系に進みたいとは思っていませんでした。ところが、あることが転機となり教師を目指すために現在は、教育学部を志望しています。

Q：そのきっかけとなったことは何ですか？

昨年度末におこなわれた修了論文への取り組みでした。全校生徒の前で発表する機会を得て、いかに聴衆の注目を集めるかの準備に力を注ぎました。その結果金賞に輝き、自信が芽生えました。そして自らの考え・思いを他人にわかりやすく、興味深く伝える仕事の1つとして教師という職業を目指したいと思いました。また本校の先生方が楽しそうに授業されているのをみて、教師への憧れが強まりました。

Q：一方で変わらないことは何ですか？

教師というまでもなく信頼されなければならないので、日ごろから基本的生活習慣をきちんとすることは、中学時代から心がけています。

Q：今、特に打ち込んでいることは何ですか？

中学時代にスポーツフェスティバルで団長をつとめ、人を動かすことの難しさ・やりがいを感じ、この経験も教師を志望するきっかけでした。高校進級時も何かないか模索していましたが、先生から応援団をやってみないかと誘われ志願しました。3回も球場で応援でき大きな達成感を味わったので、今年度もやってみようと思います。2学期からは生徒会にも入り、宇部まつりでは本校のブースでお客さんに喜んでもらえるよう奮闘しました。今後も生徒会活動に打ちこみたいと思います。

Q：将来どのような教師になりたいですか？

生徒や保護者、地域社会から信頼される教師になりたいです。



中高一貫コース20期生 藤永 凜菜さん

Q：慶進に来て1年目が終わりますが、小学時代と大きく変わったことなどはありますか？

同級生を含め周囲にいる人が変わり、人との関わりに大きな変化がありました。最初はクラスメイトとの付き合いにも緊張感がありましたが、行事などを通して打ち解けました。憧れることのできる先輩も多く、やりたいことに挑戦している姿を見るととてもカッコ良いなと感じます。

Q：小学校の頃はどのようなことに取り組んでできましたか？

小学校6年生で集会委員になるなど人前で何かに取り組むことにも挑戦しました。慶進に入ってから、英語スピーチ部での活動や選挙管理委員の活動など、人前で話す機会を積極的に作っています。

Q：英語スピーチ部の活動はどうですか？

元々人前で話すことがあまり得意ではなかったのですが、英語スピーチでステージ上に立つと、自分の中でスイッチが入り堂々と披露することができます。また、部員の仲間と一緒に練習することで他の人のスピーチから学ぶことも多く、互いに良い刺激を与えることができています。

Q：何か自分の将来のために頑張っていることが他にありますか？

ICTラボに所属し行事のお手伝いなどをしています。今はまだサポート役が多いですが、ICT機器について色々学びたいと思います。ICT関係のことはそんなに詳しくなかったのですが、活動を通じて将来役立つことも身に着くと思います。他には、子育て支援のボランティア活動に参加して、子供と遊んだり、本読みをしたりしました。保育の仕事はきっと大変だろうな…と感じながらも良い経験ができています。

Q：様々なことに挑戦して素晴らしいですね。将来になりたい仕事などはありますか？

小学生の時から商品開発のデザインなどに関わる仕事に興味がありますが、まだ明確に将来の夢が決まっているわけではありません。将来は、様々な考えができたり、受け入れられたりすることができる素敵な大人になりたいと考えているので、今できることを一つひとつ頑張っていきたいです。



SERIES XV Talking with the schoolmates...

清水 美咲

岡山大学工学部
工学科/化学生命系

池永 竜樹

山口大学工学部
知能情報工学科

宮本 宗優

筑波大学
人文・文化学群人文学類

田口翔太郎

山口大学医学部
医学科

鶴山 慶慈

山口大学教育学部
学校教育教員養成課小学校総合専修

石川 夕愛

山口大学医学部
医学科

日山 華衣

山口大学理学部
数理科学科

岩瀬百々香

熊本大学文学部
歴史学科

益田 理澄

九州大学
法学部

同窓生

令和5年度卒業

15期生の慶進

桜がだいぶ開いてきました。もうすぐ新生活が始まります。卒業した15期生は言うまでもなく、在校生の皆さんにとってもそれぞれに「変化」の時期を迎えていますね。六年前の今頃は私も新生活でした。一ヶ月前に9期生(高三)を送り出し、新たに15期生(中一)と出会い、ここになったのです。激変というやつです。

環境が変わると不安になったり、落ち着かないことがたくさんあるもの。私も特にこの時期は心(ー)や顔つき(ー)がかなり揺らぎます。自分のペースに落ち着くまでは時間もかかるし、精神的にもしんどいものですが、何事も自分なりに少しずつ前進できればいいのではないのでしょうか。無理をするのではなく、それでいて楽をするのとはちょっと違う、『挑んでいくことを楽しむ』という感覚です。

春は「出会い」の季節でもあります。ただし、出会いには自分で選べるものとそうでないものの二種類があり、ほとんどの場合は後者です。ちょうど今、皆さんが置かれている状況も同じかと。でも、それなのにそれなのに、その自分では選ぶことができない出会いのおかげ(せい?)で、お互いにたくさんの刺激を受け、お互いに大きな影響を与え、その結果が今の自分であることを皆さんはよくよく知っているはず。生まれてすぐに家族と出会ったときから、人生は出会いの連続です。この春の出会いが、自分では選べなかったこの春の出会いが、皆さんにとって『偶然』ではなく『必然』だったと振り返って言えるような、そんな素敵な出会いになりますように。

ということで、いろいろな初めては不安だし心も折れますが、楽しみながら、でもまっすぐ立ち向かえば、結果以上の自信と勇気が残ります。何年か経ってその経験に自分の背中を押されることだってきっとあります。

というわけで皆さん、新生活が始まります。

15期生担任 笹川 剛

Q：慶進の思い出はなんですか？

日山 部活です。私は六年間かるた部と合唱部に所属していて、中学生・高校生の他学年と関わりをもてたのが本当に嬉しかったです。

鶴山 中学校三年生の時のスポーツフェスティバル（運動会）が一番印象に残っています。私が一年生の時、初めてのスポーツフェスティバルで抱いていた感想は、「先輩かつこいい！」でした。団のみんなをまとめ、指示を出し、時には一緒にふざけ合う、そんな先輩の姿に憧れたのをよく覚えています。なんとか私も後輩からそう思われるような先輩になりたいと思い、応援団の一人として当時の私なりに頑張っていたなと思います。

清水 六年間皆勤したことで、す！慶進で過ごしてきた、そのこと自体が思い出です。

Q：今だからわかる慶進の魅力は？

日山 先生が転動しないことです。ずっと同じ先生に教わるができますし、卒業してからも会うことができます。

石川 生徒が主体となって、実現したいことを実現できる環境です。

鶴山 六年間過ごす中で先生方との距離がどんどん縮まることです。普通は中学校三年間と高校三年間で別々の先生と過ごします。しかし、慶進では中学の頃お世話になった先生に高校でも教えてもらうなんてことが本当によくあります。私自身、勉強でわからないところがあつた時や行き詰まつた時に、中学生の時からよく知つた先生がいたおかげで相談や質問に行きやすかつたりしました。

清水 豊富なキャリア学習が

できることです。個人で学ぶこともあれば、グループを作つて学ぶこともあります。中学生の頃から大学で学び、社会で活躍するため様々な資質を養えることが魅力かなと思います。

池永 中学、高校と同じ同級生たちと思い出を共有できるため、より記憶に残る思い出が作れたり、尊い時間を過ごすことができると思います。

岩瀬 中高一貫で良かったなと思います。授業が先取りであるため、ほかの学校が高三で授業内容を進めるときに慶進は授業が終わっている状態で、受験勉強の時間が十分に確保されていました。また、同級生が六年間変わらないため、より濃い思い出をつくることができました。

Q：21期生へのメッセージ

日山 中学生になるというこ

とで不安も大きいと思いますが、私も大学生に向けて正直不安です。初めては誰だつて不安なものなので、少しずつ慶進に慣れ、貴重な青春の六年間を楽しんでください。

石川 六年間だからこそ仲の深まる友だちを大切にしてください。やりたいことはやる。

田口 六年間、辛いことも楽しいこともあるでしょうが、その全てを楽しんでいくってください。

鶴山 慶進で過ごす日々は私にとつてとても楽しいものでした。だからこそ、私はこれからこの学校に入学するみなさんにも卒業する時には慶進つていい場所だったなと思つてもらいたいです。みなさん、友達は大切にしてください。受験が近づき、勉強が大変になつて辛い時でも、仲のいい友達がいるだけで心は本当に楽

になります。楽しいことはもつともつと楽しくなります。みなさんが慶進で充実した楽しい学校生活を送れることを祈ります。

清水 慶進での生活は楽しいことも苦しいこともありますが、そういった全ての経験が自分の力になります。目の前のことに全力で、頑張ってください！！

池永 慶進では他の中学校では経験できないことが沢山あります。是非、そういった経験を無駄にすることなく、楽しんで生活してください。

岩瀬 六年間は長いようであつという間です。学校生活を楽しんでくださいね！



令和6年度

| 大 | 学 | 合 | 格 | 実 | 績 |

中高一貫コースの主な合格校

筑波大学	3名	岡山大学	1名
防衛医科大学	1名(1)	山口大学	15名(2)
東京工業大学	3名	産業医科大学	1名(1)
慶應義塾大学	2名	九州大学	3名
横浜国立大学	1名	熊本大学	1名

()は医学部医学科

令和6年4月1日現在

※詳しくはHPをご覧ください。 <https://www.keishin-ug.ed.jp>

| お | 知 | ら | せ |

■令和6年度 新入生募集行事予定

5月	オープンスクール①
6月	オープンスクール②
	慶進祭
7月	慶進体験会
8月	学力診断テスト
10月	入試説明会①
11月	入試説明会②

慶進でお会いするのを楽しみにしています。

La photo de Keishin



「アメリカ西海岸時間の2010年1月27日、サンフランシスコで開かれた製品発表会で最初のiPadが発表された」

iPadがいつ頃発表されたのか気になって検索してみるとウィキペディアにこのように書いてありました。今から約14年前、iPadという名のタブレット端末は、決して誰もが持っている、日常のツールではなかったように思います。

2024年3月8日、慶進中学校・高等学校で行われているクラスマッチ。競技を運営する生徒会の係生徒の手には、スケジュールを書いた紙ではなく、iPad。バレーボールを応援する生徒の後ろにもiPadがおかれています。学校生活において、iPadは日常のツールへと変わりました。日常の中で、そのツールは生徒の学びに様々な変化をもたらし、生徒たちはそのツールを楽しむながら、そして柔軟に使いこなし、自らの世界を広げていきます。

Society5.0という社会で、慶進生が、非日常的な新しいツールを生み出し、そして近い未来それが日常のツールになることを想像するとワクワクする気持ちがとまりません。



第16回 小さな本箱

遠藤 陽先生のおすすめ

黄砂の籠城

「扶清滅洋」この言葉に聞き覚えがある人、素晴らしい！あなたは、高校一年生の必修科目「歴史総合」をしっかりと勉強してきましたね！

私が選んだ小説『黄砂の籠城』は、まさに「扶清滅洋」のスローガンを抱え、欧米列強諸国の侵略に抵抗した中国清朝末期の宗教結社義和団が起こした事件「義和団戦争」を題材とした時代小説です。

さて、この事件、「山川出版社歴史総合」の教科書には「19世紀末に山東省の農村の自警団組織を基盤に生まれてきた宗教的武術集団の義和団は：「扶清滅洋」を唱え北京に入場して、外国公使館を包囲した。：各国は在留外国人の保護を名目に共同出兵を行い、8か国連合軍を組織して北京を占領した(義和団戦争)。」とだけ記述されており、傍線部がこの小説が扱う内容です。世界史の教員であるで、教科書(山川の歴史総合の教科書には載っていないんだけど...)に載っている、各国の軍

松岡 洋祐

服を着た8か国連合軍の集合写真を見て「8か国連合軍なのに、なんで9人写真に写っているの？」なんて問いかけをしますが(これは余談)、この言語や文化が違う8か国(9か国)の兵隊を、誰がまとめ指揮したと思いますか？

イギリス人でもフランス人でもなく、何と我が日本人なのです。その名も柴五郎陸軍中佐、会津藩出身の生粋の武士です。この日本人の活躍は事件後、英国紙「タイムズ」で「籠城中の外国人の中で、日本人ほど男らしく奮闘し、その任務を全うした国民はいない。日本兵の輝かしい武勇と戦術が、北京籠城を持ちこたえさせたのだ」とたたえられました。

柴五郎の日記を基に書かれた『黄砂の籠城』は義和団事件のリアルを伝え、そして我々に日本人としての誇りを思い出させてくれます。戦闘シーンの迫力はもちろん、勉強にもなるし、とにかく面白い！ぜひ読んでみてください。